

次号予告

特集 データウェアハウスとデータマイニング

データウェアハウスとデータマイニングの概要	河野 浩之 (京 都 大 学)
ビジネスインテリジェントCRM	山端 博 (日本アイ・ビー・エム)
データビジュアライゼーション	加藤 博己, 伏見 俊彦 (富 士 通)
データベースマーケティングへの応用	前田 章 (日 立 製 作 所)
人間・マシン協調型データマイニング	磯部 成二 (N T T)
問題対応型データマイニング (小売業への適用)	小柳 滋, 酒井 浩 (東 芝)

編集後記

●ORにおいて、学術的な研究と企業等実践の場での活用は、車の両輪のような関係にあると思いますが、近年、残念ながら企業内でORがあまりなじみがなくなりつつあるようにも思えます。もちろん、わざわざORなどと言わなくとも、すでに定着してしまったものもあることは事実ですが、

●今月の特集は「企業事例」ということで、実践の場でORがいかに役立っているかを紹介しています。今回はたまたまと言うべきか、比較的早くからORを導入した企業の事例が中心ですが、適用事例は時代とともに変わりつつあるようです。メガコンペティションの時代にあって、企業としてどこまで公表できるかといった問題はありますが、オペレーショナルな問題だけでなく、マーケティングや企業戦略等に資する事例が出てくるのが、今後ますます望まれるのではない

でしょうか。

●ところで、今回の「企業事例」は、昨秋の「企業事例交流会」がベースになっています。私自身その中でご報告した内容を今回寄稿していますが、昨秋の「企業事例交流会」では、手法的な側面だけでなく、問題そのものの設定にいたった経緯などを質疑応答を含め詳しく聞くことができ、大変興味深いものでした。そうしたやり取りを誌面で表現するには難しい部分もあると思いますので、興味のある方は「企業事例交流会」に参加されてはいかがでしょうか(本号が出る頃には第2回目が開かれた後ですが)。

●さて、私事ながら編集委員になって1年が過ぎました。この間、特集やトップの視点等いくつか担当し、何とかやってきましたが、どれほど貢献できたことや。一番の貢献は忘年会の場所の設定だったりして。またその日が近づいています。(笹山晋一)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 大山達雄(政策研究大学院大学) 副委員長 田口 東(中央大学)

委員 葛山康典(早稲田大学)、栗田治(慶応義塾大学)、笹山晋一(東京ガス㈱)、猿渡康文(筑波大学)、椎名孝之(㈱電力中央研究所)、繁野麻衣子(筑波大学)、清水康司(青山学院大学)、外嶋成留(住友金属工業㈱)、田中宏和(神奈川工科大学)、田村明久(電気通信大学)、原 裕淳(㈱東芝)、宮崎知明(富士通㈱)、山下英明(東北大学)、吉野秀明(日本電信電話㈱)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成10年11月号 第43巻 第11号 通巻455号

代表者 水野 幸男

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

編集人 大山 達雄

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税込)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ